

大阪教育大学附属天王寺中学校評価資料
—生徒、保護者、教師を対象とする調査結果—

平成28年2月

1 調査の概要

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】	
Q1	中学・高校の別
Q2	性別(生徒の性別)
Q3	学年
Q4	組
Q5	SSH履修の有無
生徒用; 「一学期からの自分の学校生活を振り返ってください。」 保護者用; 「保護者からみて、今年度一学期のお子さんの学校生活がどのような状態だと思われましたか。」 (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う)	
Q6	将来の目標を持ち、それに向けて努力している。
Q7	物事をよく観察して調べたり考えるといった探究の活動に積極的に取り組んでいる。
Q8	他の人の話をよく聞いたり、自分の考えを他の人に伝えることができる。
Q9	興味・関心を持って授業を受けている。
Q10	予習・復習や課題の提出など、普段から一生懸命努力している。
Q11	いま、学校生活で悩んでいることは特にない。
Q12	他の生徒と協力して活動している。
Q13	学校で周りの人を大切にしている。
Q14	学校の決まり事を守っている。
Q15	充実した学校生活を送っている。
【教員用】	
Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	SSH指導の有無
「一学期からの自分の教育活動を振り返ってください。」 (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う)	
Q4	生徒に将来の目標を持たせ、それに向けて努力させている。
Q5	探究活動を意識して、生徒に積極的に取り組ませている。
Q6	読解力や表現力育成を意識して、生徒に指導を行っている。
Q7	生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
Q8	予習・復習や課題の提出など、普段から生徒に努力させている。
Q9	ゆとりを持って、生徒の指導や相談に対応している。
Q10	他の生徒と協力して活動するよう指導している。
Q11	生徒に人権を尊重した仲間づくりを意識させている。
Q12	時間を意識した生活を指導している。
Q13	身なりを意識した生活を指導している。
Q14	教室の整理整頓を意識した生活を指導している。
Q15	生徒が充実した生活を送れるように、努力している。
生徒・保護者の回答と比較する場合は、 Q12～Q14の回答の平均を用いた。	

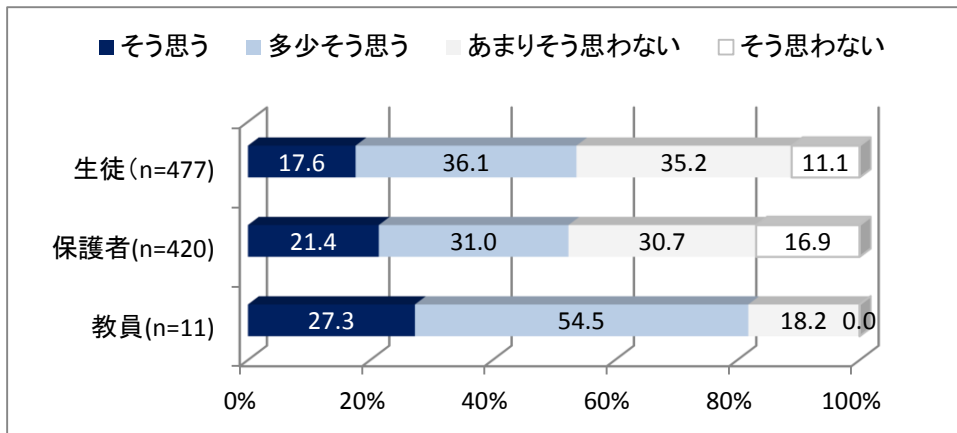
(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

対象	性別			学年			
	男性	女性	無記不明	1年	2年	3年	無記不明
生徒 (n=475)	234	239	2	158	155	159	3
	49.3	50.3	0.4	33.3	32.6	33.5	0.6
保護者 (n=422)	205	216	1	156	152	112	2
	48.6	51.2	0.2	37.0	36.0	26.5	0.5
教員 (n=11)	6	3	2	-	-	-	-
	54.5	27.3	18.2	-	-	-	-
全体 (n=908)	445	458	5	314	307	271	16
	49.0	50.4	0.6	34.6	33.8	29.8	1.8

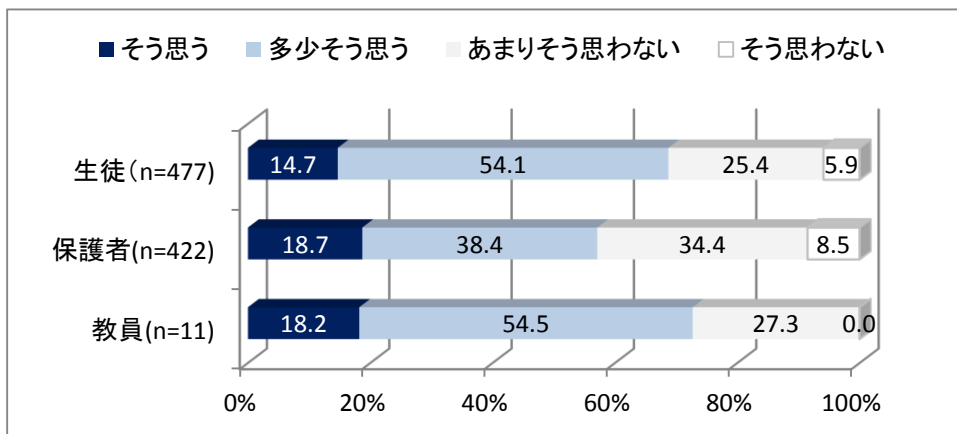
(3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

① 将来の目標



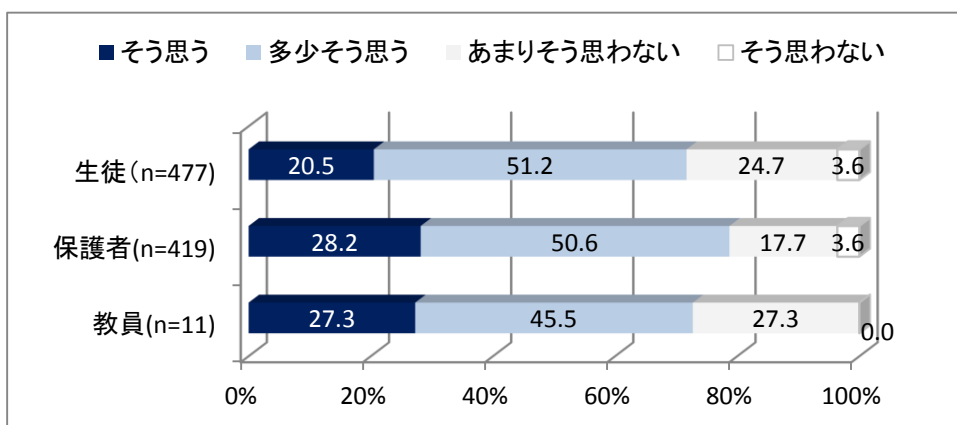
生徒、保護者、教員ともに、肯定的な回答が半数以上となっているものの、生徒、保護者とも半数近くは否定的な回答となっている。

② 探究活動



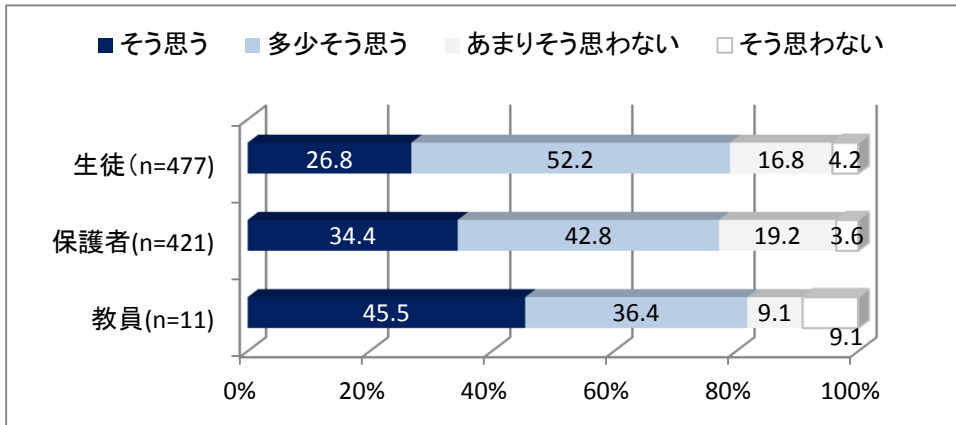
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が5割を超えている。

③ 聞く伝える



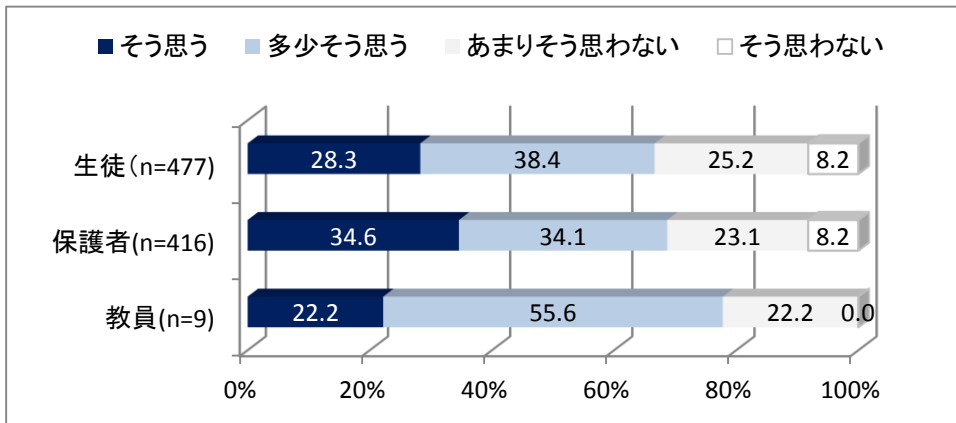
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が、7割を超えている。

④ 興味・関心と授業



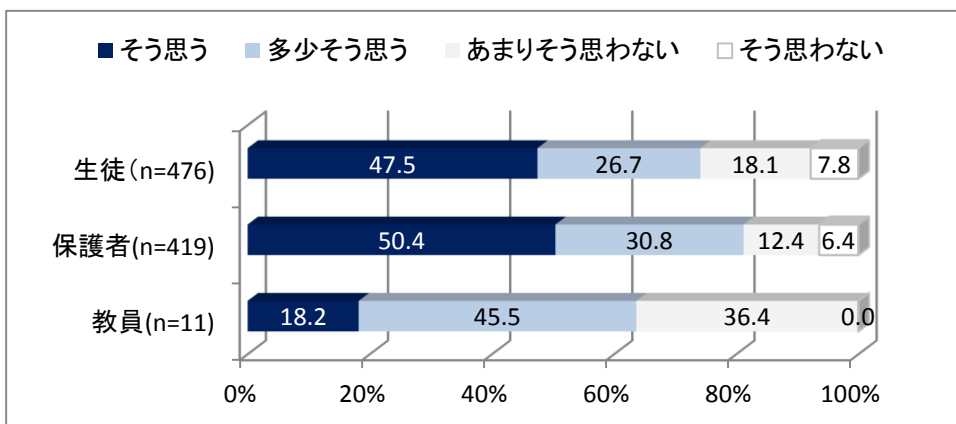
肯定的な回答の比率が、生徒、保護者、教員ともほぼ8割となっている。

⑤ 予習・復習努力



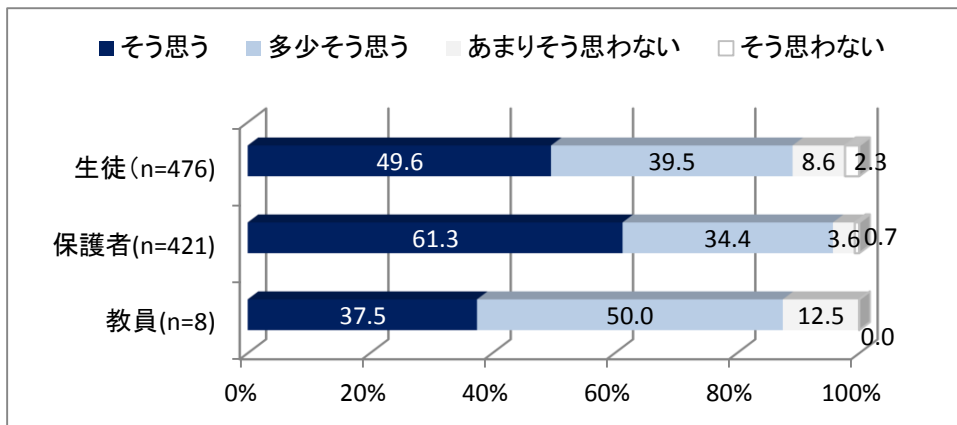
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が6割を超えているものの、生徒の「そう思う」という回答が3割程度にとどまっており、絶対的には高いとは言えない。

⑥ 学校生活と悩み



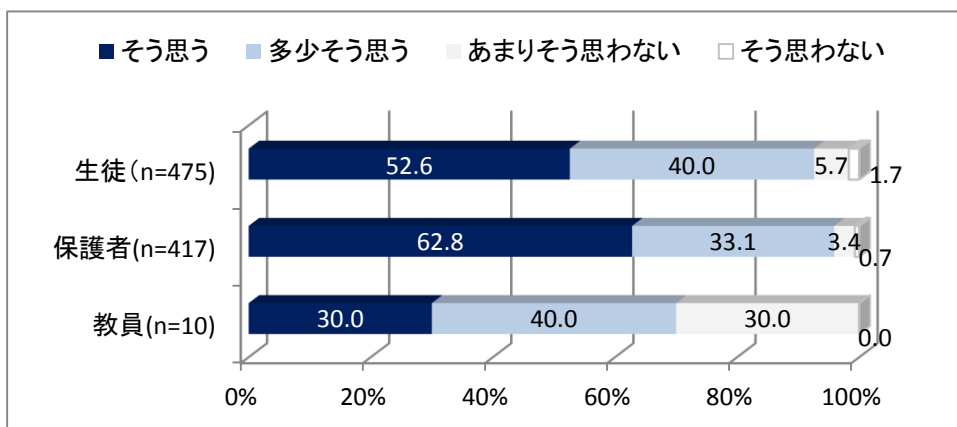
生徒の否定的な回答が25.9%と4人に1人以上の生徒が不安や悩みを抱えている状況にあることがうかがえる。教員のゆとりをもって生徒の指導や相談にのっているという肯定的な回答は、60%程度にとどまる。

⑦ 他者との協力



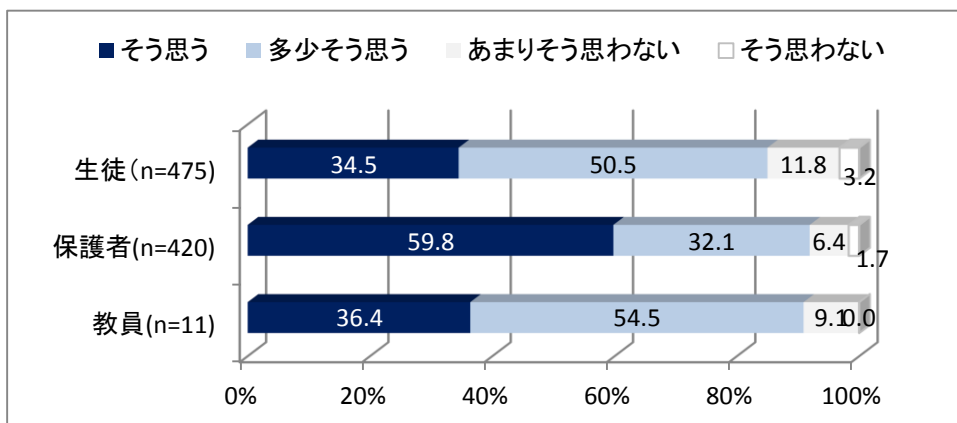
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答が8割を超えている。

⑧ 他者の尊重



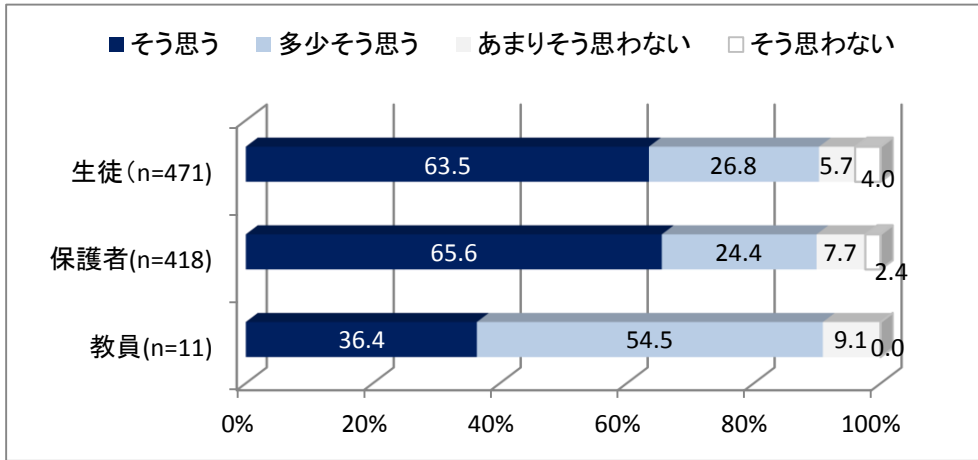
生徒、保護者では肯定的な回答が9割、教員では7割となっている。

⑨ 決まりの順守



保護者、教員の肯定的な回答の比率は9割を越えるのに対し、生徒の肯定的な回答の比率はほぼ85.5%となっている。

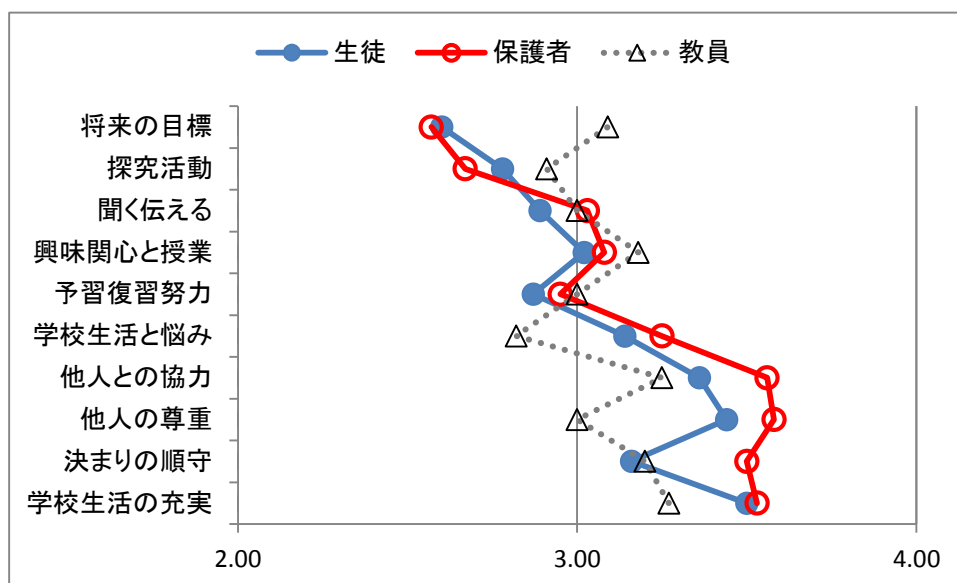
⑩ 学校生活の充実



生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が9割を超えている。一方で、生徒のほぼ10人に1人程度が学校生活に充実感を感じているとはいえない結果となっている。

(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒、保護者、教員間比較



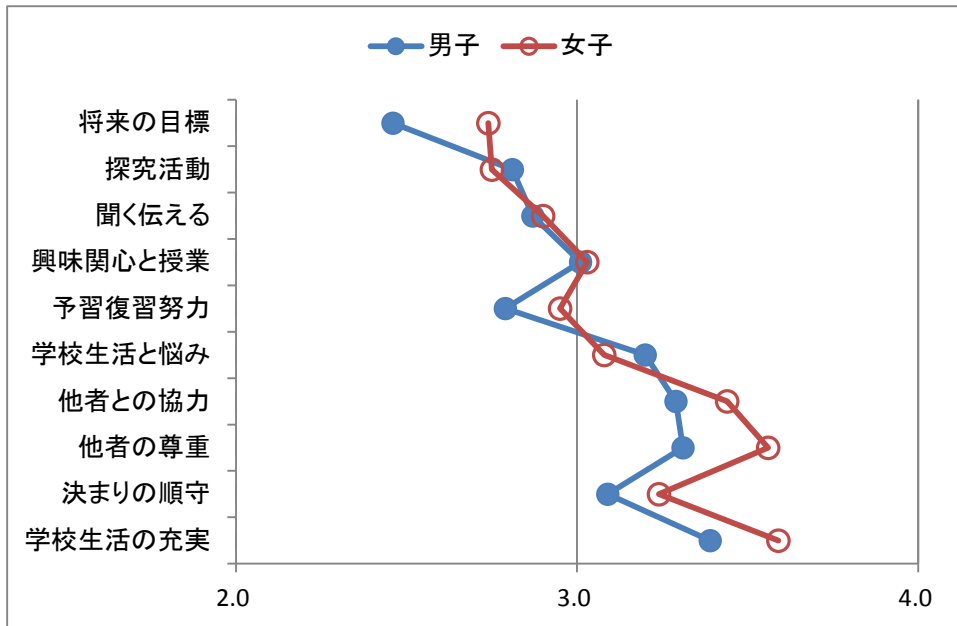
項目	生徒	保護者	教員	F値	有意水準	多重比較
将来の目標	2.60	2.57	3.09	1.661		
探究活動	2.78	2.67	2.91	2.033		
聞く伝える	2.89	3.03	3.00	4.066	p<0.05	保護者>生徒
興味関心と授業	3.02	3.08	3.18	0.869		
予習復習努力	2.87	2.95	3.00	0.946		
学校生活と悩み	3.14	3.25	2.82	2.425		
他者との協力	3.36	3.56	3.25	10.076	p<0.01	保護者>生徒
他者の尊重	3.44	3.58	3.00	8.626	p<0.01	保護者>生徒 保護者>教員
決まりの順守	3.16	3.50	3.20	24.158	p<0.01	保護者>生徒
学校生活の充実	3.50	3.53	3.27	0.768		

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、生徒、保護者、教員の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一元分散分析を施した。多重比較には *tukey* の法を用いた。

その結果、「聞く伝える」「他者との協力」「他者の尊重」「決まりの順守」において、生徒、保護者、教員の間有意差を認めることができた。

結果は、先の、(3) 学校生活にかかわる自己評価の(クロス集計)結果に示したものと同様であるが、全ての項目の状況をより総括的、客観的に示すことに主眼を置いたものであることから、詳細な結果の記述や考察は省略するが、図より、生徒の、「将来の目標」「探究活動」「予習復習努力」「学校生活と悩み」「聞く伝える」のポイントが絶対的に低いことわかる。

② 生徒の性別による比較

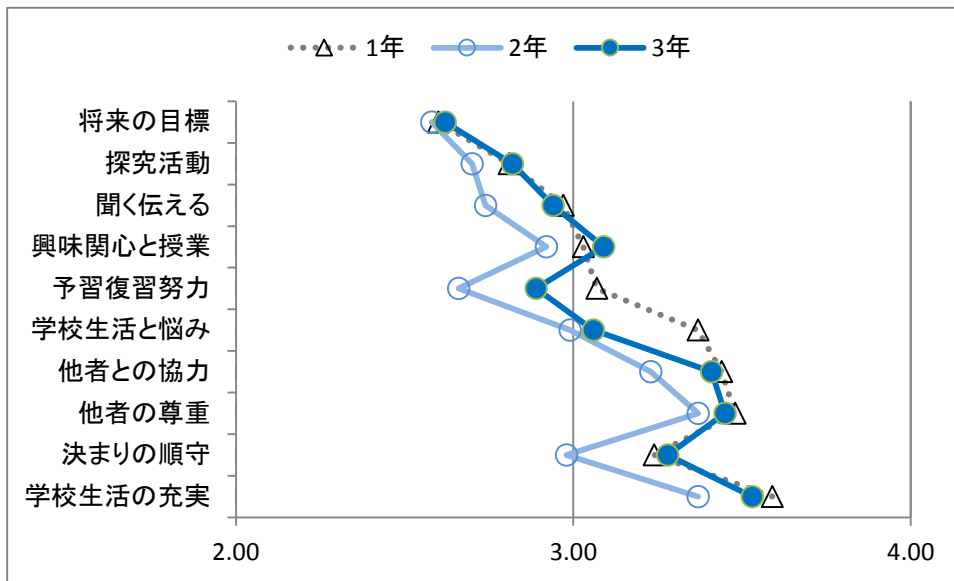


項目	男子	女子	t値	有意水準
将来の目標	2.46	2.74	-3.439	p<0.01
探究活動	2.81	2.75	0.831	
聞く伝える	2.87	2.90	-0.516	
興味関心と授業	3.01	3.03	-0.290	
予習復習努力	2.79	2.95	-1.837	
学校生活と悩み	3.20	3.08	1.402	
他者との協力	3.29	3.44	-2.100	p<0.05
他者の尊重	3.31	3.56	-4.050	p<0.01
決まりの順守	3.09	3.24	-2.308	p<0.05
学校生活の充実	3.39	3.59	-2.761	p<0.01

生徒の性別に、「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして平均を算出し、平均の差の推計のために対応のないt検定を施した。

その結果、「将来の目標」「他者との協力」「他者の尊重」「決まりの順守」「学校生活の充実」の5項目で性差を認めることができた。有意差の認められたすべての項目において、女子より男子のポイントが低いという結果となっている。

③ 生徒の学年による比較



項目	1年	2年	3年	F値	有意水準	多重比較	
将来の目標	2.60	2.58	2.62	0.084			
探究活動	2.81	2.70	2.82	1.168			
聞く伝える	2.97	2.74	2.94	4.084	p<0.05	1年>2年	
興味関心と授業	3.03	2.92	3.09	2.109			
予習復習努力	3.07	2.66	2.89	8.135	p<0.01	1年>2年	
学校生活と悩み	3.37	2.99	3.06	7.156	p<0.01	1年>2年	1年>3年
他者との協力	3.44	3.23	3.41	3.731	p<0.05	1年>2年	
他者の尊重	3.48	3.37	3.45	1.167			
決まりの順守	3.24	2.98	3.28	7.409	p<0.01	1年>2年	3年>2年
学校生活の充実	3.59	3.37	3.53	3.273	p<0.05	1年>2年	

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較には **tukey** の法を用いた。

その結果、「聞く伝える」「予習復習努力」「学校生活と悩み」「他者との協力」「決まりの順守」「学校生活の充実」の6項目で学年間に有意差が認められた。総じて、1年生のポイントが有意に高い傾向にあることがわかる。

④ 生徒の学年毎の組別比較

1年

項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準	多重比較		
将来の目標	2.76	2.50	2.42	2.70	1.187				
探究活動	2.88	2.61	2.84	2.90	1.366				
聞く伝える	2.78	3.08	2.82	3.20	3.411	p<0.05	4組>1組		
興味関心と授業	3.05	3.21	2.82	3.03	1.757				
予習復習努力	3.10	3.16	2.97	3.05	0.329				
学校生活と悩み	3.29	3.61	3.26	3.33	1.220				
他者との協力	3.39	3.55	3.34	3.50	0.732				
他者の尊重	3.44	3.63	3.39	3.48	1.070				
決まりの順守	3.05	3.47	3.13	3.33	3.209	p<0.05	2組>1組		
学校生活の充実	3.46	3.79	3.45	3.69	2.094				

2年

項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準	多重比較		
将来の目標	2.87	2.27	2.55	2.63	3.406	p<0.05	2組>1組		
探究活動	2.85	2.54	2.55	2.85	1.886				
聞く伝える	2.79	2.76	2.61	2.80	0.498				
興味関心と授業	2.97	2.92	2.71	3.05	1.143				
予習復習努力	2.82	2.49	2.61	2.70	0.783				
学校生活と悩み	3.05	2.84	2.82	3.25	1.556				
他者との協力	3.21	3.05	3.21	3.43	1.530				
他者の尊重	3.44	3.16	3.34	3.50	1.598				
決まりの順守	3.05	2.86	2.84	3.13	1.099				
学校生活の充実	3.42	3.36	3.24	3.43	0.375				

3年

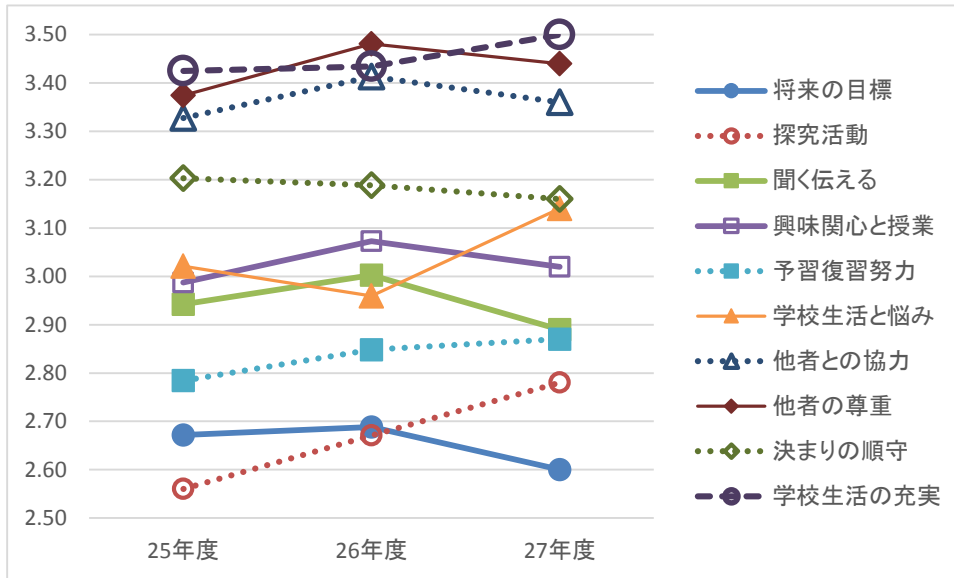
項目	1組	2組	3組	4組	F値	有意水準	多重比較		
将来の目標	2.61	2.65	2.53	2.67	0.166				
探究活動	2.87	2.75	2.76	2.90	0.386				
聞く伝える	3.00	2.90	2.92	2.93	0.120				
興味関心と授業	3.16	3.08	3.08	3.05	0.168				
予習復習努力	2.89	3.08	2.68	2.88	1.244				
学校生活と悩み	3.05	3.20	2.97	3.00	0.433				
他者との協力	3.58	3.30	3.24	3.50	1.850				
他者の尊重	3.61	3.46	3.24	3.48	1.732				
決まりの順守	3.45	3.15	3.16	3.33	1.571				
学校生活の充実	3.55	3.54	3.53	3.48	0.075				

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年のクラスごとに各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較には tukey の法を用いた。なお、1～4組は、A～D 組には対応しておらず、任意に組み替えを行った。

その結果、1年生の「聞く伝える」「決まりの順守」と、2年生の「将来の目標」においてクラス間に有意差が認められた。

(5) 調査項目に対する回答の年度推移

○生徒全体

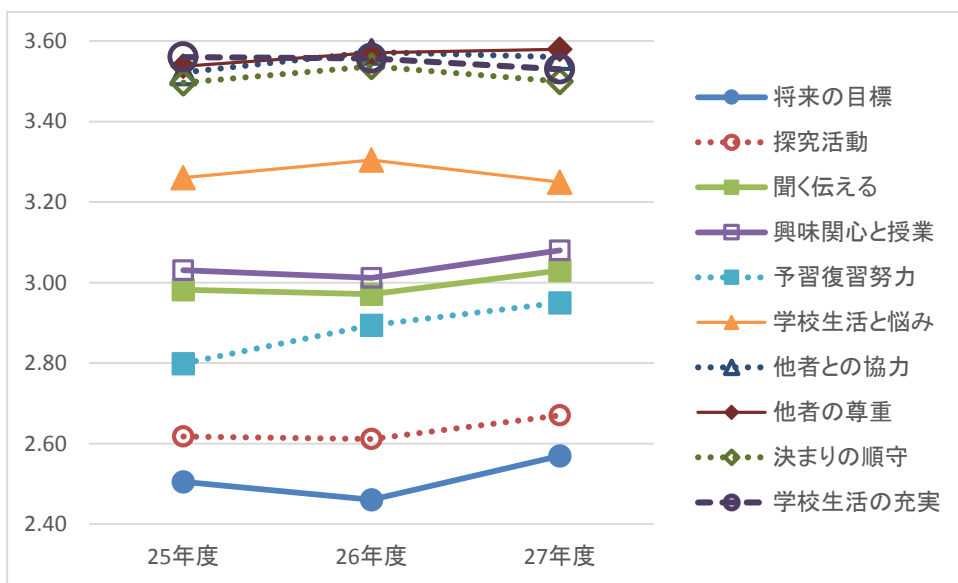


平成25年度～平成27年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度			平成27年度			p値	比較
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差		
将来の目標	469	2.67	0.849	468	2.69	0.841	477	2.60	0.903	p<0.01	H25<H27
探究活動	468	2.56	0.748	468	2.67	0.757	477	2.78	0.766		
聞く伝える	469	2.94	0.675	468	3.00	0.730	477	2.89	0.764	p<0.05	H26<H27
興味関心と授業	469	2.99	0.731	466	3.07	0.775	477	3.02	0.778		
予習復習努力	468	2.78	0.852	468	2.85	0.861	477	2.87	0.920		
学校生活と悩み	469	3.02	0.983	468	2.96	1.020	476	3.14	0.974		
他者との協力	467	3.33	0.685	465	3.41	0.683	476	3.36	0.737		
他者の尊重	468	3.37	0.673	468	3.48	0.672	475	3.44	0.679		
決まりの順守	468	3.20	0.734	468	3.19	0.782	475	3.16	0.751		
学校生活の充実	466	3.42	0.781	463	3.43	0.770	471	3.50	0.780		

平成25年度から平成27年度までの3年間の、各項目への回答の平均値を算出し、対応のない一元配置分散分析を施し、多重比較に tukey の方を用いて分析した。その結果、「探究活動」、「学校生活と悩み」において、年度間に有意差が認められた。いずれも、平成27年度の平均がそれぞれ、平成25年度、平成26年度より高くなっている。低下傾向がうかがわれる項目もあるが、年度間で有意な低下を示す項目はない。

○保護者



平成25年度～平成27年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	453	2.51	0.942	417	2.46	0.970	420	2.57	1.007
探究活動	453	2.62	0.906	417	2.61	0.856	422	2.67	0.876
聞く伝える	453	2.98	0.798	417	2.97	0.834	419	3.03	0.776
興味関心と授業	452	3.03	0.815	417	3.01	0.833	421	3.08	0.821
予習復習努力	453	2.80	1.001	417	2.89	0.955	416	2.95	0.951
学校生活と悩み	452	3.26	0.897	417	3.30	0.899	419	3.25	0.908
他者との協力	452	3.52	0.633	417	3.57	0.620	421	3.56	0.601
他者の尊重	452	3.54	0.629	417	3.57	0.576	417	3.58	0.596
決まりの順守	451	3.50	0.658	417	3.54	0.623	420	3.50	0.693
学校生活の充実	448	3.56	0.670	415	3.56	0.703	418	3.53	0.740

○教員

平成25年度～平成27年度

年度 項目	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	9	3.44	0.882	14	3.00	0.877	11	3.09	0.701
探究活動	9	3.67	0.707	14	3.07	0.616	11	2.91	0.701
聞く伝える	9	3.22	0.667	14	3.14	0.535	11	3.00	0.775
興味関心と授業	9	2.78	0.833	14	3.43	0.514	11	3.18	0.982
予習復習努力	9	3.33	0.707	14	2.79	1.051	9	3.00	0.707
学校生活と悩み	9	3.67	0.500	14	2.57	0.852	11	2.82	0.751
他人との協力	9	3.78	0.441	14	3.36	0.497	8	3.25	0.707
他人の尊重	9	3.33	0.500	14	3.21	0.699	10	3.00	0.816
決まりの順守	9	3.22	0.833	14	3.50	0.637	11	3.20	0.686
学校生活の充実	9	3.56	0.527	13	3.54	0.519	11	3.27	0.647